

降りしきる雨にもかかわらず、この日が初めてという参加者が何人も来てくれました。少人数での開催となり、低めの気温にも助けられていつもよりも長い距離を歩き、いろいろな生きものの姿を観察することができました。

初めに希少種の**ナツハゼ**を見に行きました。ツツジ科の植物で周辺のツツジの保護活動の際に見つかったとのことでした。オタマジャクシ池のショウブには**ツマキホソハマキモドキ**がたくさんとまっていた。金属光沢を放つ美しい翅を持つ小さなガです。この日は行く先々で**イセノナミマイマイ**を目にしました。



ナツハゼ



ツマキホソハマキモドキ



イセノナミマイマイ

畑の**サトイモ**の葉は雨粒をはじき、両手で持って揺らすとちらばっていた水滴がコロコロと転がり一つに集まりました。葉の表面の特殊な凹凸の効果であるという説明を聞きました。**ゴーヤ**（標準和名**ツルレイシ**）がツルを伸ばしていくつも**雄花**を咲かせていました。**雌花**を探すと、まだ硬いつぼみが見つかりました。



サトイモの葉の水滴を集める



ツルレイシの雄花



ツルレイシの雌花のつぼみ

ジャガイモの葉を調べると**ニジュウヤホシテントウ**がいました。すぐそばの石に**コシロシタバ**がいましたが濃い石の色に紛れてすぐには見つけられませんでした。湿地へ移動すると茶色い**ガマ**の穂が目につきました。



ニジュウヤホシテントウ



コシロシタバ



ガマ

シロバナサクラタデや**ミソハギ**の花も咲き始めていました。**ナンキンハゼ**は見事な花盛りで、たくさんの花穂を伸ばしていました。花穂は付け根の雌花が実になり始め、そこから先端に向かって雄花が並んでいました。



シロバナサクラタデ



ミソハギ



ナンキンハゼの花穂



湿地沿いを歩くうちにヒメカメノコテントウやマメキシタバ、トビズムカデ、ヨツスジトラカミキリなどを観察しました。ヨツスジトラカミキリはアシナガバチに擬態していると言われています。朝までの雨は相当な量になり、中道治いのせせらぎは今までにないくらい増水して、ところどころで音を立てて流れていました。



ヒメカメノコテントウ



ヨツスジトラカミキリ



増水したせせらぎ

田んぼの脇を歩くと小さなカエルが次々に水の中に飛び込んで行きました。ウキクサの間から顔を出しているヌマガエルもいました。さらに進むと木の幹にスマートフォンを向けて大きなナナフシモドキの写真を撮っている家族連れに出会いました。また秋に濃い紫色の実をつけるヨウシュヤマゴボウの花が咲いていました。



ヌマガエル



ナナフシモドキ



ヨウシュヤマゴボウの花

ウマノスズクサの花は開花初日に蜜を求めて入ったハエを付け根の子房部屋に閉じこめたあとおしべが花粉を出し、翌日になると花粉をつけたハエを外に出すというしくみになっているそうです。花の一つ取って調べると確かに中からハエが出てきました。ウマノスズクサを食草とするジャコウアゲハの幼虫も見られました。



ウマノスズクサの花



ウマノスズクサから出てきたハエ



ジャコウアゲハの幼虫

外来種のアゲハの幼虫が見つかりました。最近では在来種のアゲハの幼虫よりも目にする機会が多くなっています。帰り道ではヒカゲノカズラの胞子嚢を観察しました。また今まで見た中でもかなり長いオオミスジコウガイビルが倒木の上を這っていました。参加者が持参したものさしを使って調べると優に40センチはありそうでした。



外来種のアゲハの幼虫



ヒカゲノカズラの胞子嚢



オオミスジコウガイビル

平和公園での観察項目 (観察順) : ナツハゼ, ササクサ, ネザサ, ショウリョウバッタ, ツマキホソハマキモドキ, ショウブ, ツチイナゴ, ツツジの仲間, イセノナミマイマイ, カラスウリ, せせらぎ, サトイモ, オオウンモンクチバ, カタバミ, トマト, ゴーヤ, シシトウ, ラッカセイ, ニジユウヤホシテントウ, コシロシタバ, イボバッタ, モンシロチョウ, ガマ, シロバナサクラタデ, ミソハギ, ナンキンハゼ, ヒメカメノコテントウ, ヨツスジトラカミキリ, マメキシタバ, トビズムカデ, コウガイビル, 田んぼ, ヌマガエル, コナギ, ナナフシモドキ, ヨウシュヤマゴボウ, アゲハの仲間, ウマノスズクサ, ハエの仲間, ジャコウアゲハの幼虫, カラタチ, ヒカゲノカズラの胞子嚢, チャノキ, キノコの仲間, オオミスジコウガイビル, ニイニイゼミ, カンアオイの仲間, ウスノキ, アップルミント, ヒオウギズイセン, ギボウシ, ウシガエルの声, ウグイスの声